

よろずは

平成二六年
四月号

「記紀万葉の故地」シリーズでは、記紀万葉に記された地域にかかわる内容をご紹介します。

記紀万葉の故地 7

「日本書紀」の神武東征の記述の中に、大和の「土蜘蛛」が出てくるのは、よく知られた話です。「土蜘蛛」は、天皇に従わない、勇猛果敢な族長として理解されています。

ところで、史料上で「土蜘蛛」の用例をみると、大和のみならず、「豊後国風土記」や「肥前国風土記」にも窺えます。「豊後国風土記」には、熊襲討伐のため、景行天皇が九州を巡幸する話が散見し、その中に、従わない五人の「土蜘蛛」を討伐しようとするくだりがある一方で、地名の由来としてのみ記される、日田郡の五馬山の五馬媛や同郡石井郷の「土蜘蛛」などもみられます。「土蜘蛛」といっても、すべてが反抗的に記されているわけではなさそうです。

たしかに「土蜘蛛」の多くは、天皇に反抗する存在として描かれています。しかし、記紀全体を紐解けば、「土蜘蛛」の呼称は、服従しない多くの族長の中の一部にしか使われていません。「土蜘蛛」を天皇に従わない族長とする今日の理解は、必ずしも十分とは言えないようです。【万葉古代学係】

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。



日田盆地と筑後川

この川の流域にも土蜘蛛と呼ばれる族長がいた。